

令和8年度 年間指導計画						鹿島山北高等学校	
教科	家庭	科目	家庭基礎	履修区分	必修修	使用教科書	東京書籍『家庭基礎 自立・共生・創造』002-901
添削指導回数	6	面接指導回数	4	単位認定試験回数	1	副教材等	NHK高校講座 教科書DVD

学習の目標

本科目では、家族・家庭生活、衣食住、消費生活や生涯設計等に関する基礎的な理解と技能を習得し、生活課題を見出して主体的・創造的に解決する力を養うとともに、自立した生活者として持続可能な社会の構築に貢献する意欲と態度を育むことを目指し、以下の目標を設定する。1. 知識及び技能 人生の各段階における生活上の課題や共生の重要性を理解し、家族・家庭の役割について深く知る。栄養や食生活、衣生活、住生活の安全・快適性に関する基本的知識を理解し、生活を営む上で基礎となる技術となる技術を身につける。現代の消費生活の仕組みや消費者としての権利と責任、生涯にわたる経済的設計の基礎を理解する。2. 思考力、判断力、表現力等 自分や家族、地域の生活における具体的な課題を見出し、適切な解決策や将来に向けた望ましい生活像を多角的に考案・判断する。持続可能な社会の実現に向け、資源や環境に配慮した生活の実践策について 自らの考えを論理的にまとめ、他者と協働しながら表現・伝達する。3. 学びに向かう力、人間性等 主体的に日々の生活を工夫・改善しようとする意欲を高め、一人の自立した生活者として社会に参画・貢献する態度を養う。地域社会とのつながりや地球環境との調和を意識し、多様な人々と協働しながら、持続可能な生活の創造を目指して継続的に実践する。

学習に取り組む際の注意事項

添削指導	提出期間に間に合うように提出する。
面接指導	●視聴票・面接指導の出席と合わせ、計4時間となるように提出する。 ※視聴票による減免は原則2時間（6割減免）まで。
単位認定試験	添削指導、面接指導（視聴票を含む）を全て修了後に受験。

単位修得（認定）に当たっての評価基準

評価方法	各単元ごとに3観点で評価（A・B・C）し、すべての学習内容修了後に学則の評価規定に則り評価する。
------	--

学習内容・計画

単元名（教科書ページ）	添削指導 No.	面接指導		単位認定 試験	観点別評価	
		視聴票			観点	評価規準
		NHK高校講座	教科書DVD			
P. 12-37 生涯を見通す 人生をつくる	1	1. 2, 3, 4, 5 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13	P. 12-37 P. 64-77 P. 86-135	全課程から問題を 選出し、 出題する。	知識・技能	人生の各段階（ライフステージ）における発達課題や生活課題、家族・家庭の役割を理解している。生涯を見通したライフプランニングの意義や、生活リスク、多様な生き方・共生の重要性について基本的な知識を身につけている。
P. 38-85 子どもと共に育つ	思考・判断・表現				変化する社会情勢や将来のライフイベントを踏まえ、自己や他者の望ましい生活像・キャリア計画を多角的に考案・判断している。直面する可能性のある生活課題やリスクに対する具体的な解決策・備えについて、自らの考えを論理的にまとめ、表現している。	
	主体的に学習に取り組む態度				一人の自立した生活者として、自らの将来や家族・地域との関わりに関心を持ち、主体的にライフプランを描こうとしている。多様性を尊重し、互いに支え合う生活や社会の実現に向けて、継続的に生活を工夫・改善しようとする姿勢が見られる。	
	知識・技能				乳幼児の発達の特徴や心身の成長プロセス、保育における遊びや基本的な生活習慣の意義について理解している。子供の安全確保や事故防止、子育て支援制度や地域社会における子育て環境について基本的な知識を身につけている。	
P. 86-135 食生活をつくる	2				思考・判断・表現	乳幼児の行動や心理を理解し、発達段階に応じた適切な関わり方や生活環境の工夫について多角的に考察・判断している。親や周囲の人々の役割、地域や社会による子育て支援のあり方について課題を見出し、持続可能な子育て環境の工夫や解決策を考案・提案している。
	主体的に学習に取り組む態度				子どもや子育てに関する社会的な課題に関心を持ち、関わるの機会（実習や疑似体験等）に主体的に取り組もうとしている。子どもを育てることの意義や喜び、社会全体で子育てを支える大切さを意識し、自分と子ども・地域との関わりについて意欲的に考えようとしている。	
	知識・技能				栄養素の働きやライフステージに応じた食生活の特徴、食品の安全や表示の仕組みについて理解している。栄養バランスを考慮した献立作成や、調理の基本（準備・計量・加熱・衛生管理）に関する基礎的な技能を身につけている。	
P. 136-165 衣生活をつくる	3				思考・判断・表現	自身の食生活の課題（栄養バランス、朝食欠食、生活習慣病予防など）を見出し、健康や生活スタイルに合わせた適切な献立・食行動を判断・選択している。食文化の継承や地産地消、フードロス削減などの観点を踏まえ、持続可能な食生活の実践策について考えを深め、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度				自らの食生活や家族の食事に関心を持ち、健康的で豊かな食生活の実現に向けて意欲的に取り組もうとしている。調理実習やグループ作業において安全・衛生に配慮し、他者と協働しながら主体的かつ計画的に課題を解決しようとしている。	
	知識・技能				衣服の持つ保健的・社会的機能、素材（繊維）の特性や取扱い表示（洗濯表示）について理解している。TPOに応じた適切な着装、日常の手入れや補修・保管、和服を含む伝統的な衣文化に関する基礎的な技術・知識を身につけている。	
P. 166-188 住生活をつくる	4				思考・判断・表現	気候や生活場面、目的に応じた着用品計画を考え、快適で自分らしい衣生活を工夫・選択している。アパレル産業や衣料廃棄に伴う環境負荷などの課題を見出し、エンカルフashionやリユース・リサイクルなど持続可能な衣生活の実践策について考えをまとめ、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度				身近な衣生活や着装に関心を持ち、自分らしく快適な着こなしや衣料の適正な管理に意欲的に取り組もうとしている。資源の有効利用や環境保全の観点（3R等）を意識し、自らの衣生活を工夫・改善しようとする姿勢が見られる。	
	知識・技能				住まいの機能（物理的・心理的・社会的機能）や室内環境（採光・換気・温湿度・音など）の調整方法について理解している。家庭内事故（家庭内転倒、熱中症、ヒートショック等）の防止策や防災対策、住まいの維持管理・点検に関する基礎的な知識・技能を身につけている。	
P. 189-211 経済生活を営む	5				思考・判断・表現	ライフステージや家族構成の変化、地域環境に応じた快適で安全な住まい方や住環境の整備について多角的に考察・判断している。自然災害への備え（防災・減災）や省エネルギー、空き家問題など、住まいに関する現代的・持続可能な課題について解決策を考案・提案している。
	主体的に学習に取り組む態度				身近な住環境や住まい方に高い関心を持ち、快適で安全な生活空間の創造に向けて意欲的に取り組もうとしている。環境負荷の低減（省エネ、住まいの長寿命化など）や地域社会での住生活のあり方を意識し、自らの住まい方を工夫・改善しようとする姿勢が見られる。	
	知識・技能				家計の仕組み（収入・支出）や生涯にわたる生活リスク、資産形成・金融商品の特徴について基礎的な知識を理解している。消費者の権利と責任、契約の仕組みやカード決済などの電子マネーの特徴、悪質商法やネットトラブルの防止策について理解している。	
	6				思考・判断・表現	生涯の生活設計（ライフプラン）に応じた適切な収支計画や資産管理のあり方を、多様なリスクを踏まえて多角的に比較・判断している。情報化社会における多様な購買行動のメリット・デメリットを吟味し、環境や社会に与える影響（エンカル消費など）を捉えた合理的かつ主体的・責任ある意思決定を提案している。
	主体的に学習に取り組む態度				現代の複雑な経済環境や消費者問題に関心を持ち、自立した消費者・生活者として行動しようとする意識を高めている。持続可能な社会の形成者（エンカル消費の実践者など）として、計画的な金銭管理や適正な消費行動に主体的に取り組もうとする姿勢が見られる。	